

2022 J3 ■順位表 ■第8節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）
（注：*印は消化試合が
数字分少ない）

1	いわき	17p	+8	13	5
2	松本	17p	+7	15	8 H●
3	鹿児島	17p	+7	14	7
4	福島	15p	+7	10	3
5	長野	14p	+1	10	9
6	今治	14p	0	6	6
7	宮崎	13p	+6	14	8
8	藤枝	13p	+1	10	9 A●
9	沼津	12p	+1	10	9 A●
10	讃岐	10p	0	10	10 A●
11	富山	10p	-3	12	15 AO
12	北九州	9p	-3	7	10
1*13	愛媛	8p	-3	5	8 HO
1*14	岐阜	7p	-1	11	12 --- ---
2*15	相模原	6p	-4	5	9
2*16	鳥取	4p	-5	7	12
1*17	八戸	3p	-8	4	12
1*18	YS横浜	1p	-11	2	13 A△

次回HomeGame

第4節 vs. ガイナーレ鳥取
5/18 (水) 19:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休：月曜日

today's guest : SC相模原

2021 J2 8勝14分20敗 勝ち点38:19位

直近の対決と結果

2020/10/31
J3 - 24節@長良川

岐阜 1-1 相模原
栗飯原尚平 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	SC相模原
2022/05/07 天皇杯県予選@長良川 岐阜 5-0 岐阜協立大	2022/05/08 天皇杯県予選@ニッパツ 相模原 0-3 桐蔭横浜大
2022/05/04 J3 - 8節@藤枝サ 藤枝 4-3 岐阜	2022/04/24 天皇杯県予選@レモンS 相模原 2-0 エスベランサ
2022/04/30 J3 - 7節@ピカスタ 讃岐 2-1 岐阜	2022/04/17 J3 - 6節@とうスタ 福島 1-0 相模原

●アウェイ富山戦を制してホームに戻ってきたFC岐阜。4/17 (日) 第6節は松本をホームに迎えての大事な一戦。前半は1-1で折り返したが、後半にCKで松本に2点を奪われ、1-3で敗戦。これで再び勝ち負け数が同じになってしまった岐阜は、4/30 (土) 第7節にアウェイで讃岐と対戦。試合を優勢に運びながらも再び1-1で前半を折り返した岐阜だったが、#2フレイレが退場になってしまい様相が一変。終盤に讃岐に決勝点を決められて1-2、非常に痛い連敗を喫してしまった。そして、もう負けられない岐阜は5/4 (祝・水) アウェイ連戦で藤枝と対戦。またも試合を優勢に運びつつ前半を折り返した岐阜だったが、後半開始直後にPKを献上し、立て続けに2失点。苦しい展開となった岐阜だが、投入された#38 藤岡浩介も立て続けに2ゴールを決めて得点の奪い合いに。お互いに1点ずつ奪って後半アディショナルタイム、前掛かりになったところで藤枝に決勝点を決められて万事休す。試合は3-4で終了し、岐阜はまさかの3連敗。順位も14位にまで大きく後退した。

この結果を受けて、クラブは5/6 (金) に三浦俊哉監督の退任、後任として横山雄次ヘッドコーチが監督に就任することを発表、チームの立て直しを図ることになった。そして翌日の5/7 (土) には天皇杯岐阜県代表決定戦が開催され、FC岐阜は岐阜協立大学と対戦。大学生相手ではあったが5-0と快勝し、5/21 (土) に岐阜県代表として愛知県代表 (中京大学) と天皇杯1回戦を戦うことが決定した。

さて今週はJ3リーグ戦に戻る訳だが、首位・いわき及び2位・松本の勝点は17で、岐阜との勝点差は10。岐阜は試合数が一つ少ないが、その鳥取戦を勝利したとしても差は7。もちろん全34節のJ3リーグ戦を約1/4消化した段階なので、まだ盛り返すことは可能だ。現時点での首位・いわきの1試合平均勝点は2.13。昨年J3優勝の熊本が1.93、一昨年の秋田が2.15、2019年の北九州が1.94であることを考えれば、今季現時点でのJ3優勝ラインは勝点68 (1試合平均勝点2) と予想される。したがって、岐阜は残り27試合で勝点61 (1試合平均勝点2.26) 以上、つまり4試合で3勝以上の戦績を目指す必要がある。現時点では非常に困難な目標に思えるが、しかしこれを達成しなければJ3優勝・J2復帰は果たせないと考えるべきだし、一方でこの目標が達成できるメンバーが揃っていると信じよう。ただし、これは1つの試合毎に必死に戦い抜いて勝ち続けた結果、成し遂げられる目標だ。まずは目の前の1試合でしっかりと勝ちきること。それが3連敗で失いかけたチームの自信を取り戻し、そして勢いをつけることにもなるだろう。

さて、今節の対戦相手はSC相模原だ。一昨年は最終節に初めてのJ2昇格を決めたが、昨季の最終節に1シーズンでのJ3降格が決定。今季はJ2復帰を目指し、昨季途中から就任した高木琢也監督が続投することとなった。しかし大幅に選手を入れ替えた影響もあってか現在3連敗中だ。しかも4月末から計10名の選手に新型コロナ陽性判定が出て2試合の開催が中止。5/8 (日) の天皇杯神奈川県代表決定戦には何とか選手が揃ったものの、桐蔭横浜大学に0-3で敗れた。試合数が2つ少ない状況ではあるが、順位は15位。したがって、我々以上に相模原は「手負い」の状況で、全く油断ができない相手だ。相模原との通算対戦成績は1分1敗・2得点4失点。今季の相模原は総得点5と決定力不足に苦しんでいるが、その中でも2ゴールの#10 藤本淳吾は要注意選手だろう。そして、2017年の期限付き移籍から5シーズンの間、岐阜に在籍していた#8中島賢星の出場には注目したいが、活躍させてならないのは当然のことだ。

スタジアムでの応援スタイルの緩和も検討されているが、今もなお新型コロナ感染再拡大の怖れがあり、まだ見通しは全く不透明の段階だ。それに今季は既に開催中止となる試合が岐阜も含めて何試合も出ている状況なので、引き続き声を出しての応援は禁止されている。選手たちを鼓舞するために声を出したい気持ちを我慢しつつ、それでも僕は選手たちの後押しをしよう。ゲーフラの掲出や、旗やタオルを振ることでスタジアムを緑に染め、大きな拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。苦しい状況だからこそ、僕らサポーターの力がチームに必要なはずだ。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第6節】岐阜 1-3 松本

●絶対に負けられないホーム松本戦、そう色々な意味で（苦笑）。そして前半は激しい守備で松本を押し込む岐阜の選手たち。だけど、激しく守備に行くのは良いけど片側に集まりすぎですよ……そりゃまあ集まれば守備ブロックが堅くなるっていう効果も分かるけど、逆サイドがスカス力になるでしょ？攻撃の時って、そうやって相手を崩すじゃないですか……って感じで逆サイドPAで待ってた選手に決められて失点。ただし、前半アディショナルタイムには、右サイドを突破した#8窪田稜が送ったクロス、逆サイドの#44菊池大介が詰めて同点弾！で前半が終了。こままではよかった。だけど後半になると、守備を修正してきた松本に手を焼く岐阜の選手たち。どうも「崩してからシュートを撃とう」とボールを大事にしすぎてるように見える。思い切ってミドルを撃って、こぼれたボールを押し込むようなプレーを見せないの、真ん中を固めていれば……と松本に割り切られたような守備をされていたように見えた。一方の松本は、CKから思い切りミドルを撃って、岐阜のDFラインが崩れたところを押し込んで……3点目もCKのこぼれ球を押し込まれて。何度も同じことをしてしまうけれど、いつからウチは“ミドルシュート禁止”でサッカーしてるの？ハンドつけてるの？それとも、ミドル撃てるような選手がいないの？あるいは、そういった練習してないの？

そして、ここホーム長良川で松本に負ける屈辱感ときたら…#21ビクトルが挨拶に来たのは嬉しかったけれど、ウチとの次の対戦では、そんなに活躍してくれるなよ！（苦笑）（ささたく）

●完敗。後半終盤は、しっかりフタをされて、クボタンもトーマも、ほぼ仕事をさせてもらえなかった。前半の入りは悪くなく、失点するならミスかな？と思ってたら案の定。ミスだよな？アレ。あんなに人数掛けたのに繋がれたら、そりゃ、いるよね。ゴール前に、フリーの選手が。

それでも、イイ時間帯に好調クボタンのクロスから菊池の初ゴール。ノッていける流れだったんだけどな。後半開始から仕掛けたのは向こう。押し返せないままで失点を重ねたのが痛かった。特にCKのバリエーション。富山戦のアレがウソみたいなのウチに対して、多彩に目先を変えてきたねえ。それでも、一発で仕留められたワケではなく、混戦の中で押し込まれた。ちゃんとクリアをしてれば……とも思うが、致し方ないとも思うよ。でも、そういう球際、あと一歩、もしくは半歩早い反応で後れを取ったのが敗因ともいえるのでは？昇格争いのライバルというだけでなく、何が何でも負けたくない！と思っている（個人的な感想です）相手に、それも長良川で負けたのが悔しい……。いずれにせよ、こういう相手との、こういう試合をモノに出来なければ、目標は達成出来ない。そういうコトだね。大事なのはココから。

負けたイメージのまま二週間空くのはツライけど、この期間にいろいろと上げて行ってほしいな。（ぐん、）

●ホーム開幕戦の愛媛相手にはいいサッカーが出来たけど、やはり降格組の全部が全部「ゆるい」ってわけはなくて。前半は互角だけど旗を11本挙げたら6対5で松本、って感じ。松本はFW2枚が前線から突っかけて岐阜の最終ラインからいいボールを出させないし、最終ラインで持たせてる間にキチンと4-4のラインを作る。岐阜はブロックに対して、縦に速いパスを入れて歪みを作るとかの「動かして崩す」スキームを持っていない。選手層が厚いようできて、「厚くない」部分の欠点がモロに出た。後半になって、たしかにラックが松本側に作用した部分もあるだろうけれど、FWタイプが山内寛の1枚だけ、しかも上に書いたようにMFの選手に「オフ・ザ・ボール」の仕掛けを撒くタイプがいない。さらに、庄司と交代で入った吉濱も移動式パス砲台タイプ、しかもパス精度と展開力は残念ながら庄司ほどではないので、推進力はさらに落ちてしまった。

だから、敗戦そのものに腹は立たなかった。松本の方が強かったのだから。「負けに不思議の負けなし」だ。この試合そのものはそれでいいとして、リーグ戦5試合を終えて2勝1分2敗という現実を目を向けると、やはりどうしても溜め息が多く混ざってしまう。もし、今季のFC岐阜でも「いずれ美しくなるから」とか「完成したら面白くなるから」なんて言葉が出てきたら、「それって、もしかしてギャグで言ってるのか？」と真顔で凍りついてしまうだろう。1年で結果を出す、そのために選手を揃えたんじゃないのかい。（吉田 Casting）

【第7節】讃岐 2-1 岐阜

●松本に負けてしまった。まあ昨季までJ2かつ予算規模でもウチよりも上であろうチームなのだから、本当に悔しいんだけども切り替えて次から勝ち続けるしか無い。そんな風に思って選手たちも試合に臨んでいと、僕は思う。だけど、試合序盤から圧倒的にボールを支配できていたから、またしても「綺麗に崩して決めよう」という悪い癖が出たようだった。失点したシーンも、ありや確かにオフサイドだった（断言）。だけど、これがJ3なんだし、セルフジャッジしてプレーを止めてしまうのは言語道断だって、何回痛い目にあったら学ぶんですかねえ……（溜息）。そこから盛り返して、前半アディショナルタイムに同点に追いついたまではよかった。だけど、後半すぐに決定機が何度かあって、そこを決められなかったのが痛かった。そして、再び「綺麗に（略）」な流れになってしまったし、その決定機を演出した#8窪田稜と#9山内寛史を替えてしまったのは何故？と思ったのは僕だけではないだろう。うん……#8窪田くんは交替させられてキレたよね……。

これでドリブルで思い切りよく推進する（＝相手の陣形を自らのプレーだけで崩せる）選手がいなくなり、讃岐を楽にさせてしまった。交替で入った#39畑潤基も#45チャールスも、どうも動きが鈍くて思い切りの良いプレーが出ない。そうこうしてると#2フレイレが、絡んできてた相手を倒してしまっただけで一発レッド。これが（これもまた）J3ですよ…（溜息）。そしてギリ貧になった岐阜、それでも前掛かりに行こうとして逆に崩されて、決勝ゴールを奪われて万事休す。もちろん勝利を目指すのは当然のことだけど、退場者も出しているのだし、もう少しリスク管理はできなかつたんでしょか……（溜息）。試合終了の笛が鳴って讃岐の選手たちが大喜びしているのを見た時、今更ながらなんです僕が「あー、ウチとの対戦は（選手の知名度も高いから）通常よりも気合いが入ってるんだ…」ってことを痛感させられました。このままだとこれからも厳しい試合が続く……それを痛感させられた、あまりにも苦々しい敗戦でした。（ささたく）

●試合前に、開催地の名前を冠する某製麺の限定うどんを食べたのは、もちろん、相手を意識してのこと。あえて、ケ○カを売る意味で。ソレが敗因だったかもね？（苦笑）冗談はさておき。勝てる試合だったし、勝てそうだったよ。決定機はいくつもあったんだから。ただ、まともなシュートが決まった石津の一本だけ……。あ、クボタンの惜しいヤツがあったか。しかし、そのクボタンを替えるとかが意味不明。リードしてるんならともかくさ。一番、讃岐に脅威を与えていた選手だと思ったんだけどねえ。船津とのコンビで何回もチャンスを作ってたように見えたのはボクの見間違いかな？替えるべき選手はほかにいたような気がするのも思い違いだろうな、ウン。

たしかに、退場は痛かった。でも、赤は妥当かな。決勝点は、交替出場のヘニキが滑って転んで、集中が削がれたかもね。でも、まあ、仕方がない。次だよ、次。ただね、問題は、さ。このカテなら、いつまでも安泰だ、とか思ってないですよ？って話。JFLとの入れ替えも、そんなに遠い話じゃない。いくらでもいるんだよ、替わりはね。

この敗戦でひとつ負け越し。目標が達成できなかった過去2年にもこんな状況はなかったんだけど、昨季の途中から見て、昨季よりも力ネ使って、黒星先行は腑に落ちない。今季の目標が、毎朝のお勤めに唱えるお題目ならかわらないですけれどね。なんとかかするなら、お早めに。時間は待ってられませんよ？（ぐん、）

【第8節】藤枝 4-3 岐阜

●まさかの連敗。もう負けられない。そんな気持ちとGW3連休の中日ということで……風の噂では、1000人ももの岐阜サポが藤枝に集まったとのこと。確かにスタグル食べてるのは岐阜サポばかりだったよなえ……（苦笑）。さて、アップ時に#5ヘニキが強度のあるシュート練習してるから、てっきりトップ下でボール回収の役するんだと思ってた僕は変に思ったんだけど……まさかのFWですか！？ただし、不確定要素が高め（苦笑）ながらも#5ヘニキがボールを拾うしパワーで推進するので、試合の流れは岐阜が優勢で前半終了。シュート数も倍ぐらい撃ったんじゃないかな？このまま後半も……と思ってんだけどさあ……#17タクミ、あのプレーは無いわ……（溜息）。キミCBやぞ？ボールを大事にしようとして自爆してりゃ本末転倒でしょ。猛省してるとは思うけれど重ねて猛省していただきたい。このPKで先制した藤枝は勢いづき、岐阜は動揺したのか直後に再び失点。おおい、ウチは経験豊富なベテラン選手が多いのと違うんですか……（溜息）。この後は少し膠着状態が続き、岐阜に重い空気が漂いだしてただけど、それを打ち払ってくれたのは、交替で投入された#38藤岡浩介と#7村田透馬！2人のコンビで左サイドを崩して立て続けに2ゴールして同点！……と、ここまではよかった。だけど、両チームとも完全にオープンな“殴り合い”の様相を示しはじめていたので、まだ時間もあったの少ししチームを落ち着かせることが必要だったんじゃないだろうか。勝ちたいという想いが空回りして、守備を崩されて3失点目。だけど、すぐにまたしても#38藤岡村田コンビがハットトリックを決めて。そして今節も、最後まで全員で前掛かりに行こうとして最後にまた守備を崩されて、4失点目……（溜息）。FWがハット決めたら普通は勝つでしょ……いや、そうでもないか……。

悪夢のような3連敗。しかも攻撃と守備のバランスが修正できていない。これは監督解任確定としか僕には考えられない、そんな負け方だった。（ささたく）

●ハット・トリックを決めたチームが負けたのはJ3史上初めて、らしいです。過去40回あったこのケースは全部決めた側の勝ち。引き分けすらなかったんだそうで。歴史的偉業、とっていいのかもしれない。まあ、ハット決めた3-0から、残り10分で逆転負けするよりは遥かにマシ。2回も追いついたんだからね。勝ち切る流れだと思ったんだけどなあ。守備的にはアラアラな場面もありつつ、それでも無失点で凌ぎ、シュートもそれなりに打って優位に進めてた前半。後半も開始からしばらくは優勢だったのに、ただ一つの緩慢プレーで台無しに。アレはないよね？タクミくん。セーフティ・ファーストって知ってるよね。CBでしょ？味方へのパスもできたよね、松本にも岡村にも。パスができなくてもタッチには出せた。猛省してください。2点目はエアポケットに入っちゃったかな？でも、フレイレなら、と思っちゃうよね。3点目は柏木の不用意なパスミスから、と見えただけどどうでしょう？。でも、ね。決勝点のアレはなんですか？どっちのゴール前か、わからないようなシチュエーションだったよ（苦笑）。なんで、相手が3人も『どフリー』でいるのかな？？アレは、外してもらおう方が難しいよね。しかも、自陣でのセットプレーからだよ？敵陣でのFKやCKからのカウンターを受けたワケでもない。全員、自陣に戻ってたよな？松本がキャッチ出来ればよかったんだけど、相手に渡ったんだからさ、もう一度、ゴール前に戻ってこないかな？やれやれ。

さらに、さ。ヘニキのCFって、どういうバクチなんですか？そんなにいないの？ウチのFW。結局、決めたの藤岡だよ？クボタンは相変わらずキレてるし、トーマも交替出場で3アシスト。個人能力でなんとかしてるだけ。柏木と庄司並べて、どんな効果が、どれくらい出てるの？

2つも負け越しなんてJ3に来て初めて。ダメダメな過去2年よりも輪をかけて酷い戦績。しかも、一番力ネ掛けて。それも、過去2年の監督より準備期間を与えられたヒトが指揮してコレは納得できない。情状酌量の余地もなし。目標達成が最優先事項なら、ね。まあ、決めるのはボクじゃない。継続するんならソレもよし。前節に続き、繰り返しになりますよ、手を打つなら、お早めに……。（ぐん、）

【県選手権】岐阜 5-0 協立大

●三浦監督退任の報からわずか1日。横山新監督としても独自色を出すことはほぼ不可能。それに藤枝戦から中2日で、ベストメンバーで臨むことは無いだろう。まあ岐阜県を代表する大学生チームとの対戦なんだし、岐阜協立大学には岐阜ユース出身で以前から注目してた#10横山智也くんもいる。今日はどちら側にも付かずサッカーを楽しもう……というスタイルでの観戦。

やはりトップは藤枝戦でのスタメンをベンチ外にする編成。一方の協立大は当然ながらベストメンバー（らしい）。そして堅実な良いサッカーをしてくる。こりゃ確かにセカンドが負けるのも（残念ながら）合点がいく。ただ、やっぱり個人技やデュエルの面ではトップの選手たちに軍配が上がる。それと大学生相手に#14ホンタクさんは反則ですわ（苦笑）。というか、今季これまで出場機会に恵まれなかった選手たちが多かったから、新監督にアピールする意味も含めて、ほぼ本気の試合をしてたし、それに協立大の選手たちも必死に食らいついていた。結果としては大差がついた試合だったが、予想以上に見応えのある、そして久しぶりに心穏やかに楽しめる（苦笑）サッカーだった。トップチームも、多くの選手がゴールを決め、また大学生相手とはいえ勝利したことで、横山監督体制として少しは弾みがついたことだろう。それに、この試合だけを見れば、かなりチームが機能していたと思う。やっぱり中盤には運動量のある選手を置いておかないとダメだよなあ……。もちろん、これがJ3クラブにも通用する強度ならば、の話なのだけど。（ささたく）

●白い雲と飛行機雲が空に映える初夏の午後1時過ぎのキックオフ。ウチの下部組織・U-15、U-18出身、巷でウワサの横山クンが活躍する場がなかったのは残念というべきか、ホッとしたというべきか。岐阜県サッカー選手権大会2年連続優勝、ですな（苦笑）。

もちろん、大学生相手、と言うのは協立の選手達に失礼だし、実際に、J1だって大学生に後れを取ることもあるのが天皇杯。それでも5-0という結果なので、まあ、順当かつ無難な勝利、とでも言っておきましょうか。とはいえ、この日の内容、結果で、今後のリーグ戦における担保が得られたとは思わない。思わないけど、感想としては「腑に落ちた。納得。」かな？やっぱりね、中盤の底がしっかりしている試合は安心して見ていられるね。ホンタクと遼太郎。特にホンタクさん。正直、三浦さんの選択、柏木と庄司をボランチに並べるメリットがわからなかったし、効果が出ていたとは思えない。この試合のホンタク、遼太郎の方がいい流れを作っていたように思う。真ん中の守備が破綻しなかったし（笑）。逆に、積極的に縦にパスを付けてたから、真ん中からの攻撃が出来ていたように見えた。遼平もトップ下でイキイキしてたな。いや、今季初めてのスタメンだったからかな？リーグ戦が再開しても、柏木か、遼平をトップ下に入れるスタイルだとイイんだけどな？どうですかね？横山監督。

庄司はサブがいいと思う。交替で出てきてリズムを変える立場で。2016の維新での試合のように、ね。ボランチをホンタ

ク、遼太郎かアキラで固めに試合を進める方が先制逃げ切りの形を作りやすいんじゃないかな？アタッキング・サードでトップに付けて、そこからサイドに振った方がクボタンやトーマは当然として、藤岡も潤基も、あるいはワタルでも相当な脅威になると思うけどな。今日の試合でできたことが、そっくりそのまま、J3で通用するとは言えないけれど。

あと、嬉しかったのは富樫と服部。二人とも、よくぞ戻ってきてくれました……。富樫はウチに来て2回目のケガ。服部は腎臓損傷。特に服部。昨季のコロナの延期試合の「焼肉パワー！」の絶叫。今、思い出しても泣ける。その、服部のダイビング・ヘッド……。ホントによかった。ゼイタクを言えば、富樫のバー直撃が決まってくれてたらな。リーグ戦に取っとくか。あ、やっぱり、真ん中だよ、富樫はさ。

そう考えると、いいTMになったんじゃないかな？次節・相模原戦が楽しみです。でも、開催できるのかな？相模原戦も、鳥取戦も。心配の種は尽きないね。(ぐん)

●横山・新監督でどう変わるか？が唯一かつ最大の注目点だった試合。変わった点はすぐにわかった。中盤の守備のテコ入れ。攻撃をサイド一辺倒にせず、縦に速い楔のパスを入れる。どちらも三浦時代にはほぼなかったもの。

方針はわかったけれど、それが今後も通用するか？は別の話。協立大を腐すわけではないが、やはりプレーの『強度』の部分ではJ3での対戦相手とは差があったし、この試合でのFC岐阜のメンバーのほとんどがJ3で出ていない選手ばかりだったので、いくら監督が変わったとはいえ、この試合のメンバーで今後のJ3を戦うとは考えにくい。「展開大好き！」なウチの中盤（誰とは言わない）がちゃんと縦に出してくれるかな……。 (心配)。

とはいえ、新監督が「課題はわかっている」と語った通りに『課題の修正』をやって来たことはポジティブだ。7試合を5勝1分1敗のペースで追いつけよう。(吉田鑄造)

三浦監督の契約解除について。

●また今シーズンも起きてしまった監督交代……。何度こんなことを繰り返すのか。

もしかしたら、三浦さんの監督就任というのはクラブにとってファーストチョイスではなかったのかもしれない。しかしプロである以上就任を受諾されたのであれば、結果が出ない以上去らなければならないのは仕方のない世界である。こんなことなら実績のある選手を獲得するよりも、多少お金がかかってもいい監督を招聘してしっかりとしたチームを作り上げてもらった方が好成績に繋がるのではないかと考えたりするのだが。

なにせよクラブにはしっかりと分析と対策をお願いしたい。そして後を任された横山さん、やりづらさはあるとは思われるが巻き返しを期待したい。何にせよこのままでは終われない。(岐阜の誇り)

●個人的な感想としては、まあ妥当でしょう。というか、開幕戦のYS横浜に引き分けた時……は言いすぎかな、沼津に敗れた時にでも、監督交代はあり得ると思ってましたので。どうも、試合のマネジメントが弱いというか、選手の起用に疑問符がつくというか。運動量で勝負してくる若いチームが多いJ3で、泥臭くても良いからどうやってウチの選手たちで勝ちきっていくのかという、ビジョンが見えにくかったように感じます。もちろん、結果が出てりゃ文句もありませんが、昨年編成に関わっていて、これだけ名のある選手をJ3では異常とも言えるだけ集めて、この成績ではねえ……。どうしてこう、ウチは何度も『最近』で指揮を執っていない(=サッカー観がJ仕様アップデートされていない)』、しかもロマン派ばかり監督にするんでしょうかねえ…それで毎年毎年監督を交替して、継続性も積み上げも感じられないというのは、そろそろフロントも方向性を考え直すべきじゃないんでしょうか。というか、三浦さんをチーム統括本部長のままで、

横山さんを監督にするっていう方策はなかったんでしょうか…… (溜息)。

後悔先に立たず、あるいは後の祭りとも申しませうか。横山新監督は途中登板で大変な責任・責任となりますが、どうぞ今後をよろしく願いいたします。(ささたく)

●『契約解除』ですか……。円満に手打ちが出来たのなら何よりです。ただ、正直に申し上げて、その報に接しても驚きはなかった。今号の藤枝戦はもちろん、讃岐戦の投稿にも「手を打つならお早めに。」と書いたくらいですからね。図らずも抱いていた危惧が的中してしまいました。

見切るんなら、このタイミングしかないと思ってます。ちゃんと見てるんだな、と思いつつも、戦績的には遅きに失した感もあり。昇格枠に滑り込むのは相当困難なミッションではないでしょうか？その意味では、「どうせなら、最期まで三浦さんと一連托生で行くべきだった。」とも思います。過去2年と違って、昨年9月から強化部門を担当していた三浦さんです。選手の編成は、彼の希望に沿ったモノであったはず。その上で、GMの考えも加味して進められたワケですよ？「もう、しばらくガマンしてください。必ず、捲土重来して目標を達成してみせます！」という気概を示してくださってもよかったです。まさか、今季の指揮を任せるために、早めに押さえておいただけで、特に編成の仕事はしていなかった……なんてことはないでしょうから。

そもそも、なぜ、三浦さんだったのでしょうか？本当に彼がベストだったのですか？たしかに、この3年間では、いちばんまともなサッカーを指向してくれたように思います。ただ、ウチの過去2年との比較には何の意味もないワケです。戦うのは今季のJ3に所属するクラブなんです。讃岐戦、藤枝戦の選手起用などを見ると、ベストどころか、ベターとも言えなかったんじゃないか？という疑念すら湧いてきます。いったい、何に基づいての選択だったのでしょうか。これで、四年連続でシーズン途中での監督交替です。クラブの戦績は、その都度低下していますね。やはり、現場から離れて久しい方では、現在のJリーグの指揮官は難しいことが証明された気がします。10年離れていたとはいえ、海外で指揮をしていた三浦さんだから……という期待もありません。ただ、当然ですが、監督一人の責任ではありません。このクラブの基本はなんなのでしょう？そこにきちんとした筋が通ってないから、こんな状況が続くのでは？さて、横山さんには大変厳しい状況下での就任となってしまいました。それでも、あえて『やり甲斐のある状況』と述べさせていただきます(笑)ウチにとっては初めての『J3での指揮経験がある監督』。この状況からの『下剋上』を楽しみにしています。(ぐん)

●自分が「いいオトナではない」ことは自信がある(苦笑)ので、「ありがとうございました」も「お疲れさまでした」も言いません。感謝の気持ちも労いの気持ちもないのに、言えませよそんなこと(苦笑)。

いきなり監督ではなく、昨年9月から『チーム統括本部長』の職責にいたるのだから、三浦氏が今季の編成作業に加わってないなんてことは、ないですよ？>小松社長。「三浦氏はこの偏った選手構成でどうサッカーを組み立てるんだらう？」は、開幕前は疑問ではなく期待の形容だった。でも、比較的早いうちにそれは疑問の形容に戻っていた。後ろからサイド、サイドから前。正面からのミドルも少なく、中で動いてかき回す汗かき遊撃MFもいない。決まったルートでボールが動くのだから、さぞ相手は守りやすかったらう。「綺麗だけど様式美でしかないサッカー」で、J3でどこまで出来るか？の実証実験が出来てよかったですね。

クラブを肯定評価するなら、横山氏という実績のある指導者を確保していたこと。2年前、ゼムノビッチ監督解任のきっかけとなったホーム長野戦での0-2敗戦、その時の長野の監督だったひとだから。そう考えると、やっぱり「どうして三浦氏が監督だったんだらう」と思わざるを得ない。(吉田鑄造)